

絶景と 癒しの宝島



西ノ島町は、日本海に浮かぶ隠岐群島の島前地域にある一島一町で、国賀海岸を中心とした美しい景観や恵まれた海洋資源などを活かした、漁業・畜産・観光を基幹産業としたまちづくりを進めています。

近年、日本は低成長・人口減少の時代を迎え、離島・中山間地域を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、この島に古来大切に継承されている、自然、文化、歴史、そして町民の暮らしを守り、次世代に引き継いでいかなければなりません。

持続可能な西ノ島の未来のために、地場産業の振興や、UIターンの拡大と次代を担う人づくり、医療福祉の環境整備等に取り組み、皆さんと力を合わせて「笑顔あふれる元気なまちづくり」を目指してまいります。

この町勢要覧では、本町の概況とともに隠岐ユネスコ世界ジオパークを代表する国賀海岸の雄大な景観、伝統・文化、人々の営み等を紹介しています。ぜひ西ノ島町の魅力をご覧ください。

西ノ島町長 坂栄 一秀

Contents

西ノ島町について	4-5
沿革	6
行政	7
総合振興計画	8-13
伝統文化	14-15
文化財	16-17
コミュニティ図書館	18-19
イカのまちづくり	20
グルメ・特産品	21
西ノ島町マップ／アクセス	22-23

西ノ島町について

町民憲章

国賀の雄大な自然と豊かな海の資源は西ノ島の誇りです。
私たちは、この美しいふるさとに生きることをよこび、平和で明るい町づくりをめざし、
この憲章を定めます。
(昭和62年11月3日制定)

1. 美しい自然と歴史を大切にし文化の香りに満ちた町をつくりましょう
1. 明るく仲よく助け合い心身ともに健やかで生きがいに満ちた町をつくりましょう
1. 清新な気概とたくましい創造力をもって産業をおこし豊かさに満ちた町をつくりましょう

位置、地勢

島根半島から北東へ約65km、日本海に浮かぶ隠岐諸島は大小180余りの島々から成り立つ群島型離島です。この中で人が住む島は西ノ島(にしのしま:西ノ島町)、中ノ島(なかのしま:海士町)、知夫里島(ちぶりじま:知夫村)、島後(どうご:隠岐の島町)の4つで、島後に対して西ノ島、中ノ島、知夫里島の3つをあわせて、島前(どうぜん)と呼び、大きく2群島に整理することができます。

西ノ島町は島前の3島のうち西ノ島を占め、1つの島で1つの町を形成しています。

気候

西ノ島町は、対馬暖流の影響を受けて、日間気温差は比較的少なく、年間平均気温は14.0度と比較的温暖で降水量は年間総雨量1,750ミリ、最大積雪量は22センチと山陰地方では極端に少なくなっています。

冬期は北西の季節風が強くなり、200~300mの山脈を背に内湾に面する大部分の集落は、しのぎやすくなっています。

通天橋(つうてんきょう)

海に大きくせり出した巨大な岩の架け橋。岩石の中央部が海蝕作用によってえぐりあげられたもので、大自然が創り出した造形の妙を見ることができます。約7kmにわたって粗面玄武岩の海蝕崖や海蝕洞が続き、国立公園に指定されている隠岐最大の景勝地、国賀海岸にある代表的な奇岩です。



町章

西ノ島町の地形を図案化し、調和のある発展を象徴、円は町民の融和と団結をあらわす。

町の木



[黒松]

町の花



[椿]

沿革

古代

隠岐は、古事記・日本書紀でみられるように国土生成の時より大八洲の1つに数えられ、歴史的には古い島であるといわれています。上古には大陸間海上交通の要衝であり、孤島とはいえ、早くから開けた島であったので、古代国家の体制が確立すると共に島でありながら一国として扱われ、応神朝には隠岐国造が任ぜられました。



隠岐 焚火の社
(初代歌川広重画)

現代

西ノ島町は、昭和32年2月11日、国の画期的な町村再編成の線にそって、旧黒木村と旧浦郷町が合併した町で、隠岐の島町に次ぐ人口を有し、島前地区の産業、交通の中心地となっています。

それ以降漁業と観光・畜産の町として発展し、昭和38年には大山隠岐国立公園に指定され、隠岐を代表する景勝地、国賀海岸により広く知られています。



後醍醐天皇

中世・近世

律令時代に隠岐は遠流の地に定められ、以来近世まで一貫して流刑の島として遠流刑に処せられた人々は数知れないといわれています。その中には中央の史上に顕れる知名度の高い名士や高官もあって、地域の文化や一般庶民の生活・風俗に及ぼした影響は大いなるものがあつたと思われます。

近世は、北前船の風待港として栄え、上方文化の影響を直接受けるなど流人の島としては文化的に比較的恵まれた環境であつたといえます。



行政

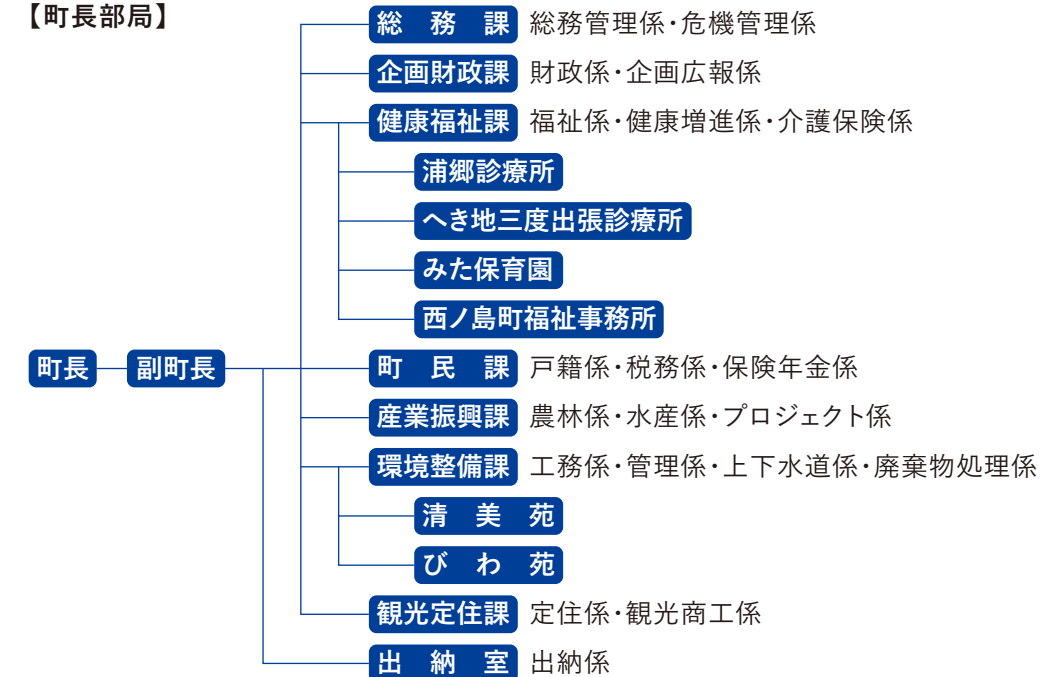
西ノ島町役場

「人の力」が主役となったまちづくりを進めることを第一に、豊かな資源を活かし、みんなで助け合い、心身ともに健やかな「笑顔あふれる元気なまち」の実現に向けた住民サービスを提供します。

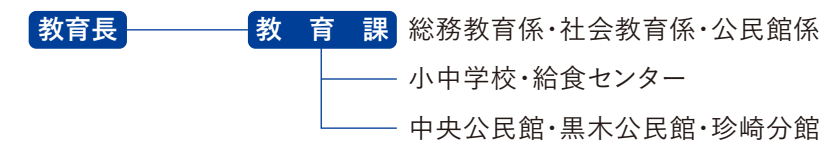


行政機構図

【町長部局】



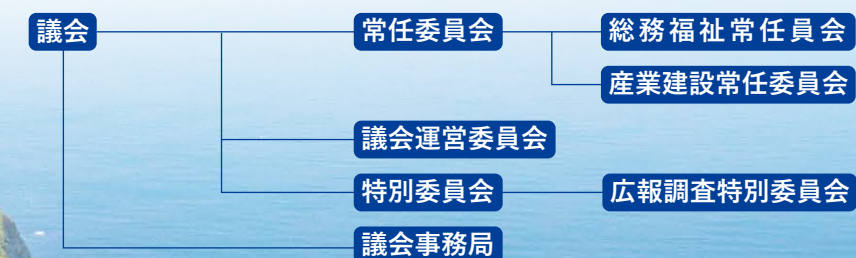
【教育委員会】



西ノ島町議会

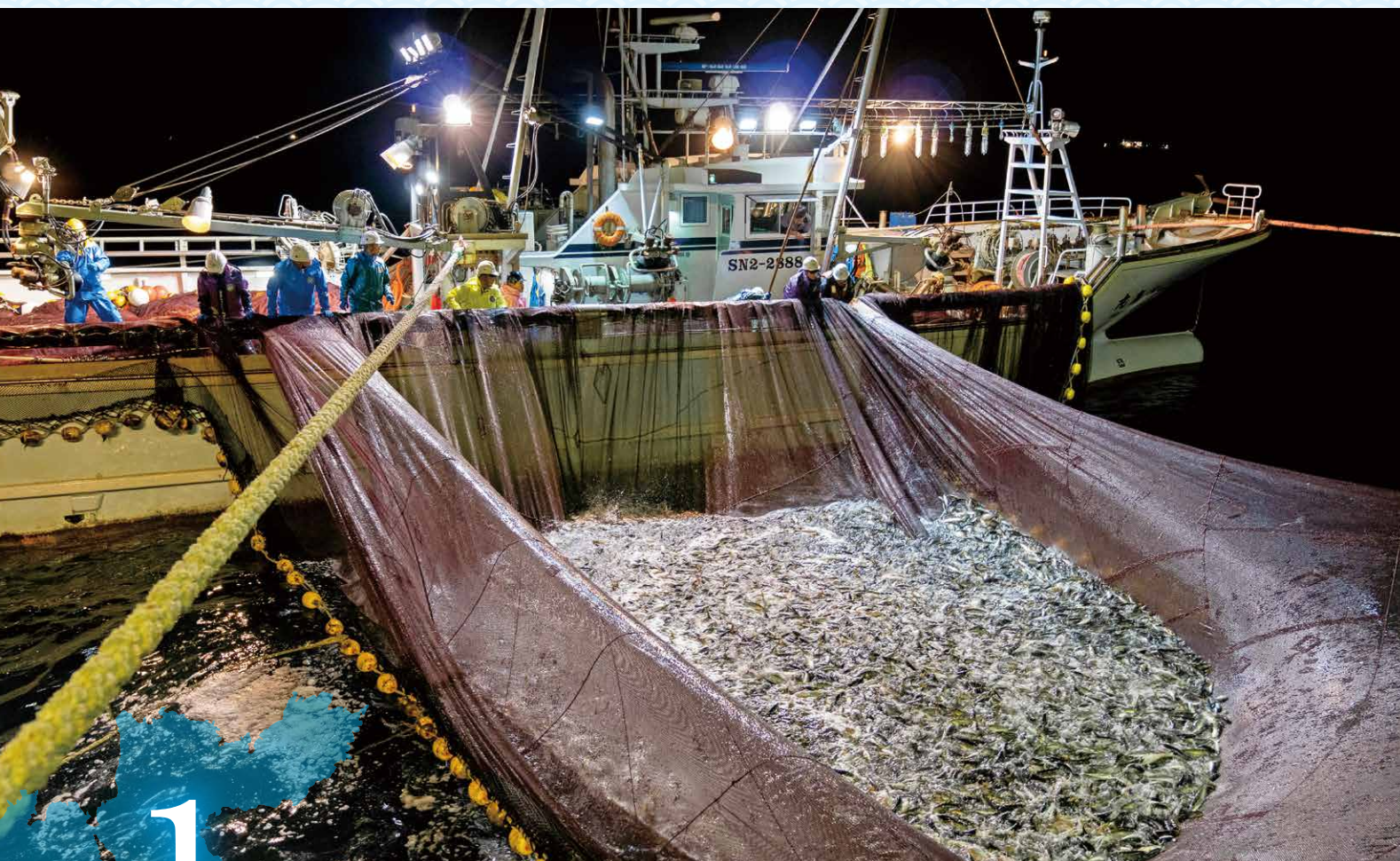
町議会は、住民の代表として、西ノ島町をより豊かで暮らしやすい町にしていくために、町長が提案する予算、条例などの調整の重要な事柄を審議し、最終決定する大切な役割を担っています。

議会機構図



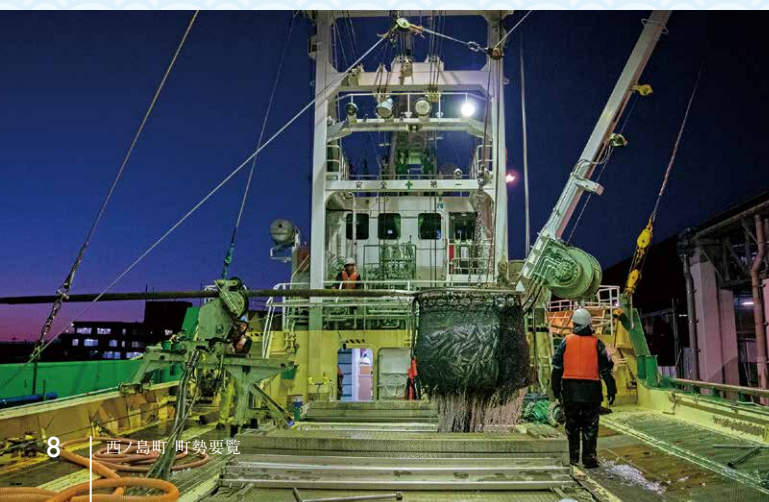
第5次西ノ島町 総合振興計画

町民の皆さまの「人の力」が主役となったまちづくりを進めることを第一に、豊かな資源を活かし、みんなで助け合い、心身ともに健やかで、「夢と笑顔のあふれるまち、西ノ島」が実現されるよう計画策定し、取組を実施しています。



1 資源を活かして働く

西ノ島町は、イカ・岩がき・サザエをはじめとした水産物に恵まれています。これらの資源を活用した西ノ島町のブランドの確立に向け、多様な主体の連携による特産加工品開発に取り組んでいます。



また、近年、未利用資源である海藻を活用した事業に取り組んでいます。



澄み切った海、おいしい魚介類、雄大な景観、四季折々に咲く花、たくさんの鳥の鳴き声。

西ノ島町には、豊かで美しい自然資源がたくさんあります。本町の産業や文化は、この豊かな自然資源によって育まれてきました。

西ノ島町には、この自然資源を活用した多くの「しごとの種」があります。これまでの「勤める」という働き方にとらわれることなく、自分のアイデアを活かしながら西ノ島町ならではの働き方を模索する。そのチャレンジする心を町も応援します。



自然資源を豊かで美しいままに次世代へ継承していくこと。それは、現代を生きる私たちに課せられた重要な使命です。

私たちは、資源を活かしながら西ノ島町らしい働き方を追求し、美しい自然を守り活かす取組を追求していきます。



2 助け合い健やかに暮らす

西ノ島町では、「老いも若きも願いはひとつ みんなでいきいき 生涯現役」をスローガンとして、健康づくりに取り組んでいます。それは西ノ島町に住んでいる一人一人こそが、西ノ島町の活力だからです。

その力が十分に発揮されるためには、皆が心身ともに健やかであることが何よりも大切です。



西ノ島町では一人でも多くの「育てたい!」を育むため、子育て世帯への支援充実、保育体制の充実、地域による子育て支援体制の構築に取り組んでいます。

私たちは、助け合いながら、心身ともに健康に暮らせる取組を追求していきます。



西ノ島町の医療施設は、隠岐広域連合立隠岐島前病院を拠点に、浦郷診療所、へき地三度出張診療所、民間の歯科医院1箇所があります。また医師や福祉関係者等による地域ケア会議等を通じて、保健・

医療・福祉の連携体制のもと、町民の医療にあたっています。緊急時には、ドクターヘリ等による対応も行っています。





摩天崖 (まてんがい)

何十万年もの間、日本海の逆巻く風浪に削り取られてきた比類なきスケールの大断崖。

標高は257mにも及び、海蝕崖では日本有数の高さを誇ります。

崖面には繰り返し流れて積み重なった溶岩の作らした模様が見えます。

3 自然とともに暮らす

赤尾展望所 (あかおてんぼうじょ)

赤尾スカイラインの終点にある赤尾展望所からは、隠岐を代表する世界一級の景勝地、国賀海岸を一望にのぞむことができます。

西ノ島町の西海岸一帯は、約7kmにわたって粗面玄武岩の海蝕崖、海蝕洞が続いており、昭和38年(1963年)には、国立公園に指定され、特別保護区となっています。



明暗の岩屋 (あけくれのいわや)

延長250mに及ぶ、自然が造り出した天然のトンネル(洞窟)です。狭い暗黒の世界を無事通り抜けると、そこにはコバルトブルーの海が迎えてくれます。



西ノ島町には、摩天崖や通天橋といった雄大で美しい自然景観ほか、地域特有の動植物により形作られた独自の生態系が今も息づいています。これらの豊かな自然環境は、度重なる火山活動や海面の上下

運動によりもたらされました。また先人たちは、そこから得られる自然の恵みを活かしながら生活を営んできました。



隠岐ユネスコ世界ジオパーク

ジオパークは、「大地の公園」と訳されています。

私たちが住む地球のプレート活動や火山活動によって造られた大地と、その大地の上に広がる生態系、そして、私たち人の営みである歴史や文化などとのつながりを楽しく知ることができる場所です。言い換えれば、地球の仕組みを知ることができる場所なのです。

日本海に浮かぶ四つの有人島と180余りの無人島からなる隠岐。はるか3万年前にはすでに人が住み、石器時代は黒曜石の産地、中世は後醍醐天皇などの遠流の島、近世は北前舟の風待ち港として時代ごと

に存在感を放ってきました。

こうした歴史と、日本形成が垣間見える大地、謎多き生態系が存在する隠岐は、世界的に見ても貴重な島。

2017年9月9日には、「世界ジオパーク」に認定されました。

隠岐がジオパークと呼ばれているのは、目の前に広がる絶景や不思議な生態系、地元独特の文化から、大地がどうやって生まれたか、人と自然はどうつながっているかを、まるで探検するように学べるからです。さまざまな謎を解き明かすカギを、見つけに来てください。

参考URL:「人と自然をつなぐ島 隠岐ユネスコ世界ジオパーク」
<http://www.oki-geopark.jp/>

伝統文化



しゅうはいら 十方拝礼

美田八幡宮で西暦奇数年の9月中旬の例祭で奉納されます。祭礼は「神の相撲」「獅子舞」「田楽」の3部で構成されます。

美田八幡宮に田楽が奉納されたという記録は天正18年(1590年)が最も古いものですが、口伝によると後白河法王時代に島に入ってきたといわれています。

このうち芸能として特徴をよく残している田楽は地元では「十方拝礼(しゅうはいら)」と呼ばれ、全国的に見ても屈指の芸能であるとして平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

にわのまい 庭の舞

日吉神社で西暦偶数年の10月に奉納される祭礼で「庭の舞」「神の相撲」「田楽」の3部で構成されます。

この庭の舞は今から800年前に近江国甲賀群真野庄の領主であった真野宗源が戦乱を避けて、隠岐に逃れた際に伝わったものといわれています。

平成4年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



おきどうぜんかぐら 隠岐島前神楽

島前では7月になると各地で夏祭りが催されますが、その時奉納されるのが島前神楽です。県の無形民俗文化財に指定されています。



しゃーらぶね 精霊船

町内の美田・浦郷地区に残る送り盆行事で毎年8月16日の早朝に行われます。

今から100~150年ほど前に西ノ島では5~6人が乗れるような大型の精霊船を各地区毎に共同で造るようになったといわれています。竹や木を骨組みに、麦わらを船体にし、帆柱を立て、帆には色紙で作られた無数の盆旗を結びつけたその姿は素朴なものです。人目を引きつける華やかさを持っています。

文化財



焼火神社

平安時代から全国に海上安全の神として知られた神社です。焼火山の中腹にあり、明治以前には焼火山・雲上寺と称していました。一般的には焼火権現として知られています。平安中期の創建といわれ、社殿は大岩窟の中からせり出すように建てられています。平成4年に国の重要文化財に指定されました。



焼火権現

焼火権現は、「焼火神社」のご神体であり、海上安全の神として崇められています。「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげる氏のデザインにより、別府港フェリーターミナルに設置されました。

©水木プロ



焼火はつまいり

焼火神社がある焼火山には旧暦12月30日の夜、海上から火が三つ浮かび上がり、その火が現在、社殿のある巖（いわや）に入ったという信仰があります。以前は、隠岐島全体から集まって神社の社務所に籠り、ご神火を拝む風習がありました。現在もその名残を留め、旧正月の2月5日から島前の各集落が、各々、日を選んでお参りするはつまいりが传承されています。



由良比女神社

「隠岐国一の宮」。延喜式神名帳に見える古社で漁業神、海上守護神として島内の信仰を集めています。鳥居が海中に立ち、その入江にイカの大群が押し寄せることで知られております。

黒木御所

別府港の東、湾に突き出た丘の上にあり、元弘2年(1332年)、後醍醐天皇が配流になられ、約1年間住まわれたといわれる伝承の地で、島を代表する史跡となっています。丘の上には御所の史跡の他、天皇をまつる黒木神社があり、昭和33年に県史跡に指定されました。



由良比女神社 大祭

隔年(西暦奇数年)の7月最終の土日に行われる由良比女神社の大祭で数多くある島の祭の中でも最大規模のものです。



帝祭

後醍醐天皇が隠岐を脱出されたことにちなんで、黒木御所周辺を舞台に御所車行列や時代行列が練り歩きます。





いかあ屋

日本海にぽつんと浮かぶ離島、隠岐・西ノ島。

みぎは海、ひだりは山、住むのは馬と牛と人。

そんな小さな島に、みんなの大きな図書館をつくりました。



暮らしを支えるまちの居間 「西ノ島みんなの家」

西ノ島町コミュニティ図書館「いかあ屋」のメインコンセプトは、西ノ島の暮らしを支えるまちの居間「西ノ島みんなの家」。

小さな島だからこそお互いの顔が見える安心感。そのなかで、人びとがひとつの屋根の下に集まって、情報に出会い、ものに出会い、ひとに出会える場所。そして、この島に暮らす人びとを支え、島から旅立った人びとをつなぎ、島を訪れる人びとを温かくもてなす場として、コミュニティがつながりあう図書館を目指します。

「西ノ島みんなの家」を支える4つのテーマ

1. 西ノ島町の日常を支える図書館
2. コミュニティの拠点となる図書館
3. 西ノ島町の中と外をつなぐ図書館
4. みんなが参加する図書館づくり



名前の由来

「いかあや」は、西ノ島の方言で「行こうよ」という意味の言葉です。誰もが行きたくなくなるような場所になってほしいという思いが込められています。

また西ノ島では、お互いのことを屋号（家ごとの名前）で呼び合う習慣が残っています。そんな島の家々と同じように、図書館もみんなの家となるよう、『いかあ屋』という屋号をつけました。



イカのまちづくり

活イカ 活っちゃん

町の特産品である
イカをモチーフに
誕生しました。



由良比女神社にある「イカ
寄せの浜」には、イカにまつ
わる伝説が数多く残っており、
現在でもたくさんのイカが押し
寄せる神秘的なところだ。

イカは町民にとっても身近
な存在ですので、イカを活かしたまち
づくりに取り組んでいます。



グルメ 特産品

暖流と寒流がぶつかる隠岐の近海は、
魚介類の宝庫です。
新鮮な魚介類を使った
グルメ・特産品を
ぜひお楽しみください。



隠岐のいわがき

3月～6月が旬で、西ノ島は日本で初めて人工採苗によ
る岩がきの養殖化に成功しました。岩がきは出荷前に滅
菌海水処理を施し安全性を高めています。



アワビ

隠岐のアワビは極上品として、古来より朝廷に献上され
ていました。西ノ島では主に素潜り漁で漁獲され、貝殻は
アクセサリーに加工されるなど、名産となっています。



サザエ

島では年間を通じて豊富に獲れます。サザエの炊き込
みご飯はおふくろの味。



メザシ

浦郷地区の特徴である山から吹き降ろす秋風が、天日
干しの「メザシ」作りに最適なため、浦郷産のメザシは品
質の良さで有名です。



えりやき鍋

もともと漁師たちが船上で食べていた賄食。シイラを唐
辛子や玉ねぎを入れ甘辛く煮た鍋で、隠岐では郷土料理
を取り入れた初めての観光食とされた。「えりやき」とは魚
を「炒める」が方言で「える」になったもの。



サザエ丼

隠岐といえばサザエ。出汁でやわらかく煮たサザエと
あらめ、めかぶ、温泉卵をのせた一品。

マップ・アクセス



超高速船レインボージェット



・航路

西ノ島町と本土間においては、フェリー 3 隻と高速船 1 隻が運航しています。

・内航船

島前 3 町村間においては、2 隻の内航船が運航しています。



アクセス

【JR】●東京(新幹線)→岡山(伯備線)→米子…約6時間 ●大阪(新幹線)→岡山(伯備線)→米子…約3時間 ●福岡(新幹線)→岡山(伯備線)→米子…約4時間
【空路】●東京(羽田)→出雲…約90分 ●東京(羽田)→米子…約80分 ●大阪(伊丹)→出雲…約50分
【高速バス】●東京、大阪・神戸・京都・広島・岡山・福岡→松江もしくは米子
【高速船・旅客フェリー】●七類又は境港(フェリー)→西ノ島町・別府…2時間30分
●七類又は境港(超高速船)別府…1時間(直行便の場合)

